

事務事業名		学校支援員・介助員配置事業		所属部	子ども政策局	所属課	子ども家庭支援課	
総合計画体系	政策名	〈IV〉ふるさとを学び育つまち〈教育・文化〉		所属G	子ども家庭支援G	課長名	高橋知恵美	
	施策名	〈26〉学校教育の充実		担当者名	野々村 悟史	電話番号	0854-40-1067 (内線) 2261	
	目的・対象	児童・生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。				
	基本事業	〈078〉困難さを抱える児童生徒への支援の充実		予算科目	0:1:5:0:0:3	大事業名	教育推進事業	
目的・対象	児童・生徒	意図	個に応じた教育・支援を受ける。				中事業名	学校支援員配置事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
児童生徒 特別な支援を要する園児児童生徒	学校生活を不安なく過ごす。 保護者が安心して園児児童生徒を送り出すことができる。 教員が学級全体を見渡しながらかみ細やかな指導ができる。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	特別な支援又は生徒指導上配慮の必要な園児児童生徒のため学校に支援員・介助員を配置する。 《介助員》特に配慮を要し介助が必要な園児児童生徒に対し介助員を配置し、校長等の指示のもと、健康管理、食事、排泄、移動、衣服の着脱などの日常生活や行動、動作について身体介護を行う。 《支援員》特に配慮を要し支援が必要な園児児童生徒に対し支援員を配置し、校長等の指示のもと、危険行為の防止・安全確保・健康管理・学習支援・情緒の安定等・個に応じた支援をする。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R3年度実績(R3年度に行った主な活動) 配置人数 学校支援員30名 配置先 幼稚園2園、小学校10校、中学校2校	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 平成21年度から専門的見地による指導主事の配置

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(計画)
ア 全園児児童生徒数に占める学校が支援員・介助員の配置を必要としている児童生徒の割合	%	5.1	7.2	7.7	8.0
イ 学校が支援員・介助員の配置を必要としている児童生徒に占める支援員を配置した児童生徒の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)	② コストの推移	単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)	
報酬30,345千円	財源内訳	国庫支出金	千円				
手当 5,649千円		県支出金	千円				
費用弁償1,775千円		地方債	千円	25,700		24,400	51,100
地方債: 過疎ソフト		その他	千円				
		一般財源	千円	2,310	34,943	13,369	73
	事業費計	千円	28,010	34,943	37,769	51,173	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	支援員・介助員が支援を行うことにより、支援を要する児童生徒が、落ち着いて学習に取り組めるようになった。また、支援員・介助員が見守りを行うことで、安全に安心して学校生活を送ることができた。
② 事業実施するうえでの課題	支援日数・時間の延長を求める声が多い。
③ 課題解決に向けた改革改善等	令和4年度より全ての支援員・介助員の勤務時間数を週30時間とした。